流鏑馬四〇〇年祭　元和九年―令和五年
妻木のやぶさめ

令和五年十月七日(土)宵祭／八日(日)本祭

妻木八幡神社　土岐市流鏑馬行事保存会

妻木のやぶさめ400年　元和９(1623)年―令和５(2023)年

流鏑馬は、江戸時代初期の元和９(1623)年に妻木の領主妻木家頼が、御旅所を造営し、馬一頭を献上したことが始まりといわれています。また妻木家頼が始めたのは、「大名行列・武者行列」であったともいわれます。江戸時代中頃には、流鏑馬だけでなく、山車(だし、飾り付けをして練り歩く屋台)や湯立神事なども行われていました。また歌舞伎の興行などが行われ大いに賑わいました。祭礼日は旧暦の８月13日に湯立神事を、８月15日に流鏑馬が行われました。

しかし、明治３(1870)年を最後に流鏑馬は廃絶し、湯立神事などの伝統行事もなくなりました。明治14(1881)年に多くの人の努力により流鏑馬は復活しました。乗子の衣装はこの時に陣笠・陣羽織となり、弓は射る形を取るだけになりました。

かつてこの地方では多くの馬が飼養され、窯業原料や製品の運搬に使われていました。この馬が流鏑馬や花馬として活躍してきましたが、道路が整備されトラックが普及すると地域から馬はいなくなり、昭和47(1972)年に流鏑馬の馬はサラブレット(元競走馬)に替わりました。

平成30(2018)年に、本来の流鏑馬の再現を目指して馬を在来馬(日本の固有の馬)に戻し、現在に至ります。

Ｓ28(1953)年、駄馬(荷物を運ぶ馬)での流鏑馬

Ｓ44(1969)年、駄馬(荷物を運ぶ馬)での流鏑馬

Ｈ13(2001)年、サラブレッドでの流鏑馬

流鏑馬行事400年を迎えて

流鏑馬は、元和９年(1623年)に始まり、400年の節目を迎えました。

流鏑馬行事は昭和31年に土岐市無形民俗文化財に指定され昭和59年秋に設立された土岐市流鏑馬行事保存会が町民と一体となって400年の長きに渡って連綿と受け継がれ愛されてきた伝統行事であります。

行事には小学生が乗子・巫女として参加しており、経験した小学生は、生まれ育った町の伝統のお祭りに参加できて光栄に思っています。流鏑馬がいつまでもこの町に残りみんなが楽しめるお祭りとして引き継いでいって欲しいと望んでいます。

保存会としては、歴史のある伝統行事を継承し次の400年を目指して日々努めて参りますので、ご理解と暖かい御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、妻木町が新たな歴史を築き、更に発展されることを切に願って挨拶とさせていただきます。

保存会会長　渡辺慶信

発行元　土岐市流鏑馬行事保存会　〒509-5301 岐阜県土岐市妻木町3051-1　八幡神社社務所内
http://tumagihatiman.com/ ☎0572-57-6441